国際かんがい排水委員会等活動支援調査事業［拡充］

【１９（２０）百万円】

対策のポイント

ICID及びINWEPFでの活動を通じて、我が国が有する技術及び研究成果を加盟国に普及するとともに、我が国が有する「質の高いインフラ」技術への理解醸成を図ります。

＜背景／課題＞

・国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）は、「食料安全保障と貧困削減」、「持続可能な水利用」、「パートナーシップ」の３つのチャレンジを掲げ、世界の水田農業発展のため、連携を行ってきました。

・我が国は、効率的な水利用に関する国際的な水議論に対応するため、水田農業が有する多面的機能（外部経済効果）及び持続的な水管理に関するINWEPFのワーキンググループをリードし、各種国際会議等で情報発信を行い、多面的機能及び持続的な水管理に関する国際的な理解増進を図ってきました。

・現在、政府として「質の高いインフラ」技術の輸出促進に取り組んでいます。INWEPFには長年に渡る活動により、政府・国際機関の人的ネットワーク及び対話の場が構築されており、**INWEPFの枠組みを活用することによって、我が国の技術に対する理解増進及び我が国が有する技術の海外展開の一翼を担う相手国政府機関の人材を育成することが可能です。**

・**ICID（国際かんがい排水委員会）**は、「かんがい農業によって、環境を乱すことなく食料増産を図り、飢餓や食料不足の軽減促進をすること」を目的として、1950年に設立された国際機関です。**76の国・地域**により構成されており、我が国は、1951年に閣議決定により加盟しています。

・我が国は、加盟以来、学識経験者をICIDに派遣しており、**加盟国が有するかんがい排水分野の技術・研究に関する情報を入手し、国内の技術・研究開発に活用**してきました。現在、我が国は、かんがい農業の先進国として、我が国が有する最新の技術・研究を、ICIDを通じて普及しており、ICID並びにかんがい農業の発展に貢献しています。**ICIDの枠組みを活用し、引き続き世界の貧困・飢餓の削減及び農業生産の拡大に貢献することが重要**です。

政策目標

○ICID及びINWEPFでの活動を通じて、我が国のかんがい排水に関する技術・研究を国際社会に発信するとともに、相手国及び国際機関の理解を高め、我が国が有する「質の高いインフラ」技術の海外展開を促進。

＜主な内容＞

１．ICIDを通じたかんがい排水分野の技術・研究の収集・普及　１２（１２）百万円

ICID日本国内委員会の活動を支援し、**かんがい排水分野の技術・研究の収集・普及**を図ります。また、ICIDの活動に対し我が国の主張を反映させ、**我が国のプレゼンスの向上**を図ります。

２．INWEPFの活動を通じた本邦技術への理解醸成［新規］　７（０）百万円

INWEPFの枠組みを活用して、国際的な水議論のみならず、**我が国の有する水田農業に関する「質の高いインフラ」技術に対するメンバー国及び国際機関の理解増進**を図ります。

委託費
委託先：民間団体等
事業実施期間：１の事業　平成29年度～平成32年度
２の事業　平成30年度～平成32年度

〔お問い合わせ先：農村振興局設計課　（０３－３５９５－６３３９）〕

国際かんがい排水委員会等活動支援調査事業
(うち、国際水田・水環境ネットワーク活動強化)

INWEPFとは

- 第3回世界水フォーラム（2003年3月、京都）の後、我が国（農林水産省）が主体となって、アジア・モンスーン地域を中心に水田農業を実施する国々から構成される「国際水田・水環境ネットワーク」（INWEPF）を創設した（2004年11月）。
- 我が国は、INWEPFを活用し、国際的水議論に対する我が国の主張（水田農業の多面的機能、農業者参加型水管理等に関する重要性）について、国際社会の理解増進を図ってきた。
- INWEPFは、我が国の主張・施策に対する国際社会の理解を得る重要なツールである。

背景・課題

INWEPFを活用した理解増進

資金の流れ

国 → 委託 → 民間団体等

INWEPF（加盟国：17カ国及び8国際機関）

○我が国インフラ技術の活用による農業生産性の拡大に関するワーキンググループの設立

相手国の開発ニーズ・課題把握

INWEPFタスクフォース会議
INWEPFシンポジウム・運営会議

我が国が有する「質の高いインフラ」技術への理解増進

○インフラ整備計画のキーパーソンに対し、我が国が有する「質の高いインフラ」技術の理解増進を図り、海外展開を図る土台を構築

○国際社会への情報発信

国際会議(世界水フォーラム、世界かんがいフォーラム等)

①我が国が得意とする工法、優れた技術を積極的にアピールし、日本の「質の高いインフラ」技術の輸出促進を図る
②多面的機能及び持続的な水管理の重要性に関する国際社会の理解醸成を図る

事業内容

農業生産の拡大に関するワーキンググループを設立し、メンバー国のニーズ・課題把握、我が国が有する技術の紹介及びその技術に関する議論を行う。

INWEPFワーキンググループ
我が国の先進技術の紹介及びその技術に関する議論

→ 情報発信

INWEPF全体会議・各種イベント
各種国際会議（世界水フォーラム、世界かんがいフォーラム等）

→ 成果

インフラ輸出の促進

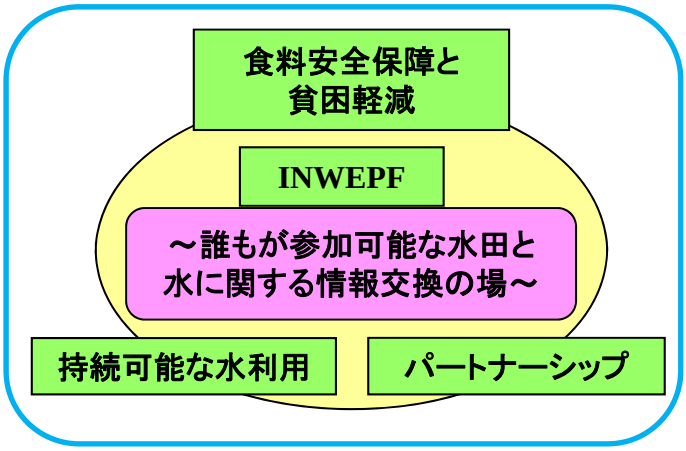
期待される効果

① 我が国が有する技術に対するINWEPF加盟国及び国際機関の理解を増進させ、「質の高いインフラ」輸出促進に貢献
② 世界水フォーラムや世界かんがいフォーラム等の国際会議において、水田農業の多面的機能及び持続的な水管理の重要性に関する国際社会の理解醸成に貢献

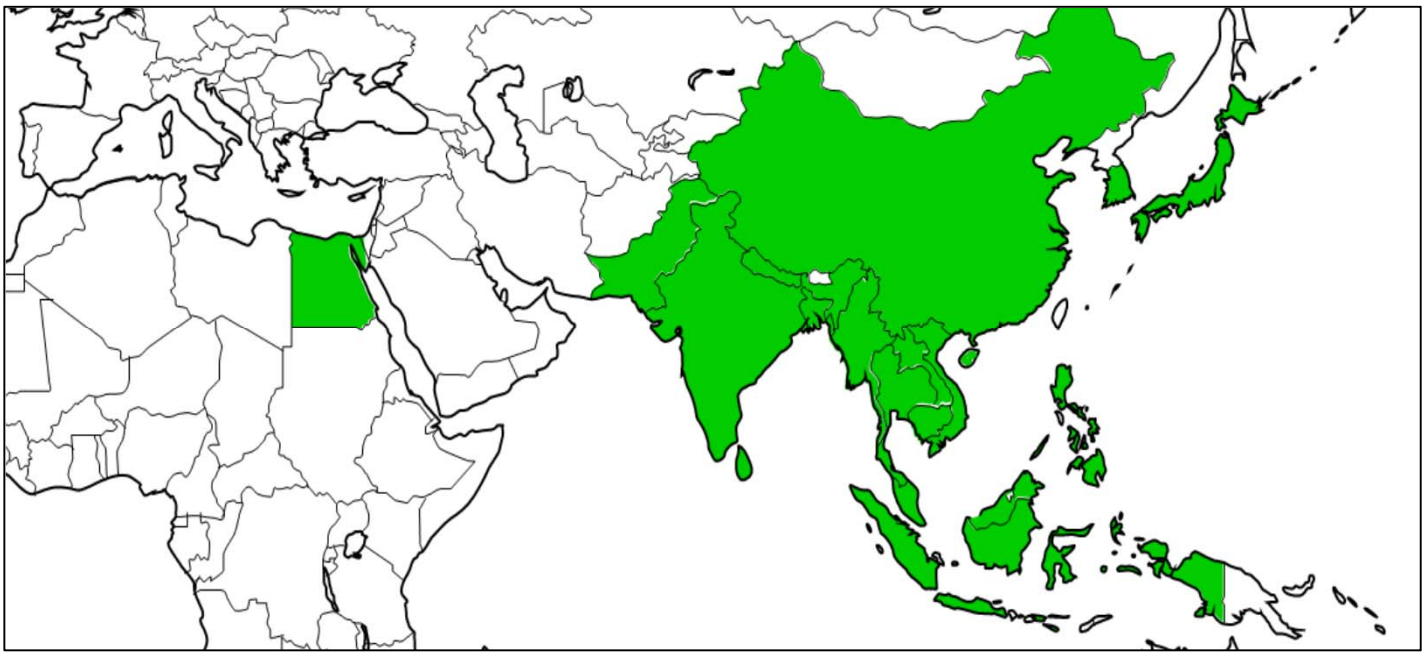
国際水田・水環境ネットワーク

INWEPF: International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields

- 第3回世界水フォーラム（2003年3月、京都）の一環として、農業に関わる世界各国の大臣が参加する「水と食と農」大臣会議を開催。
- 大臣会議で「食料安全保障と貧困軽減」、「持続可能な水利用」、「パートナーシップ」の3つのチャレンジ（挑戦）を設定。
- 3つのチャレンジの達成に向け、日本の農林水産省は、アジア・モンスーン地域を中心に水田農業を実施している国々からなる「国際水田・水環境ネットワーク」（INWEPF）を創設（2004年11月）し、持続的な水田農業に資する施策・研究などの共有、提言活動等を実施。



第14回シンポジウムの様子
（平成29年11月　フィリピンにて）



◆メンバー国：

韓国、日本、中国、マレーシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、ラオス、バングラディシュ、エジプト、インド、パキスタン（17カ国）

◆国際機関等：

IWMI（国際水管理研究所）、IRRI（国際稲作研究所）、WB（世界銀行）、INPIM（参加型水管理国際ネットワーク）、FAO（国連食糧農業機関）、MRC（メコン河委員会）、ICID（国際かんがい排水委員会）、PAWEES（国際水田・水環境工学会）（8機関）

国際かんがい排水委員会等活動支援調査事業
（うち、国際かんがい排水委員会活動促進支援調査）

ICIDとは

- 国際かんがい排水委員会（ICID）は、かんがい農業によって、環境を乱すことなく食糧増産を図り、飢餓や食糧不足の軽減促進を図ることを目的として、1950年に設立された国際機関。76の国・地域が加盟（2017年12月現在）。日本は1951年に閣議決定により、日本国内委員会が加盟。
- 我が国は、ICIDの活動に参画することにより、我が国が有するかんがい排水分野の技術・研究を、加盟国へ普及し、農業生産の拡大及び効率的な水管理の推進等の国際的課題に貢献。

背景・課題

ICIDの活動を通じた情報共有

ICID(加盟国：76の国と地域)

かんがい排水分野の技術・研究に関する情報を入手 ⇓ ⇑ 日本の技術・研究を普及

学識経験者
(大学、民間企業等の研究者及び技術者)

日本国内の技術向上・研究開発に寄与 ⇓ ⇑ 派遣・活動支援

日本(農林水産省)

今後も、ICIDを通してかんがい排水の技術・研究を入手・普及し、世界の農業生産拡大等に貢献する必要

資金の流れ

国 → 委託 → 民間団体等

事業内容

① ICID本部が行う活動（ICID国際執行理事会及び世界かんがいフォーラム等）への参画
② ICID日本国内委員会の活動支援
③ ICIDの各種会議における議論及び共有された技術・研究の把握

学識経験者
大学、民間企業等の研究者及び技術者
→ 招聘 → **ICID日本国内委員会**
→ 派遣 → **ICID国際執行理事会**
各種作業部会、地域部会
世界かんがいフォーラム

期待される効果

① ICID加盟国から入手したかんがい排水に関する技術・研究を、国内の技術・研究開発に役立てることにより、国内の農業生産の拡大に貢献
② 我が国のかんがい排水に関する技術・研究を普及することにより、途上国における農業生産の拡大に貢献
③ かんがい排水分野における日本のプレゼンス向上に貢献